



こどもと大人の交通安全 ～「交通ルールを守る」をあたり前に～



ほんの少し目を離した際に、ヒヤリとした場面を経験した保護者の方は多いと思います。しかし「危ないから飛び出してはいけないよ」と一生懸命に伝えていても、こどもは目の前の楽しいことに夢中になりすぐに行動してしまいます。

安全に外出ができるようにするためにも、交通安全について楽しみながら学んでもらうこと、繰り返し練習をすることがとても重要です。



の

交通安全

雨の日は、親も子どもも傘を差すため手をつなぐのが難しく、また、いざというときに機敏な行動がとりにくいものです。特に雨の日は「時間と心」にゆとりを持って行動しましょう。



～雨の日の服装・持ち物のポイント～

まわりがよく見えるよう、傘は両手でまっすぐに持とう

黄色などの目立つ色
(反射材も活用)

荷物があるときは、リュックなど両手が使えるように工夫しよう

レインコートのフードは、子どもの視界を遮る場合があるので注意しよう

サイズに合った滑らない靴



傘さし運転禁止



自転車に子どもを乗せて、傘さし運転…大変危険です！傘さし運転は禁止されています。親として正しいお手本を示しましょう。



雨の日はドライバーも悪条件が重なります

視界が狭く見えにくくなったり、ブレーキがききにくくなるので、雨の日は特に急な横断はやめましょう。





安全

に渡ろう



交通事故にあわないために、横断歩道を安全に渡ることが重要です

子どもが道路を渡るとき、手をあげるのはどうして？

- 子どもの身長は低いので、手をあげることによってドライバーに存在を知らせる。
- これから道路を渡りますという意味をドライバーに伝える。

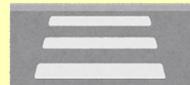


ポイント

令和3年4月に「交通の方法に関する教則」が改正され、「信号機のない場所を横断するときは手を挙げるなどしてドライバーに横断意思を伝えること」が明記されました。子どもだけでなく、大人も横断する際はドライバーに手と目で合図をして渡りましょう。

子どもの目の高さで、教えましょう

子どもは大人と比べ、視界や視野が狭いので、見える景色が違います。子どもに道路の渡り方などを教えるときには、膝を曲げ、子どもの目の高さに合わせて指導するようにしましょう。



交通安全リンク集

ここでは交通安全のことを親子で楽しく学べるサイトを紹介します！是非見てください！
※ご覧いただく際には通信料が発生する場合があります。



家庭で学べる交通安全(幼児～高校生編)

川西市HPに掲載している交通安全コンテンツを紹介しているページです。

JA共済「交通安全！百科事典」

交通ルールを「カテゴリー別」でわかりやすく紹介しています。

